



■最近の話題

青森の農林水産業を体感するバスツアーを開催しました

令和5年11月24日(金)、環境公共学会の主催による「青森の農林水産業を体感するバスツアー」を開催しました。本バスツアーは、農林水産業を支える公共事業を一般県民に紹介し、環境公共の理解・普及を図ることを趣旨としています。

コロナ禍が落ち着きつつあるなか3年ぶりの開催となった今回は、津軽方面の地区・施設を巡り、農業・林業・畜産業・漁業の取組を幅広く紹介しました。

見学内容

農業分野では、屏風山地区のながいも栽培に関する施設を見学しました。砂丘地帯において畑作営農を行っている屏風山地区では、スイカやメロン、にんにくやごぼう等の露地栽培を行っています。当日はあいにくの荒天で予定していたながいもの収穫体験はできませんでしたが、施設内でながいもが洗浄され、箱詰めされる様子を見学できました。また、かんがい用スプリンクラーに水を圧送する、加圧機場の内部を見学できました。



【ながいも集出荷場】

畜産分野では、肉用牛の冬期預託施設を見学しました。冬期間は積雪によって牛を放牧できないため屋内で牛を飼育しますが、自己所有牛舎に加えて牛を預かってくれる外部の施設（預託施設）があると、飼育頭数の増頭による所得向上が期待できるなど、畜産農家に大きなメリットがあることなどを屏風山畜産組合から説明を聞くことができました。



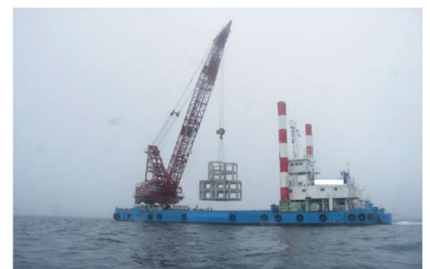
【肉用牛冬期預託施設】

林業分野では、日本海からの風害や潮害から集落を守ってきた防風林帯を引き続き維持するための防風工や植栽、護岸の根固め工について見学しました。



【防風工を行った地区の全景】

最後に、漁業分野で行っている魚礁^{ぎょしょう}整備について説明を聞きました。鉄骨やコンクリートで作った高さ20m前後の魚礁を海に沈めることで、魚のすみかや餌場、産卵場所となり、漁獲量の向上や魚の大型化に繋がっていることを学びました。



【魚礁の設置イメージ】

参加者からは、「普段見ることができない県の取組について説明を受け、体験できるこのようなイベントは楽しい」、「同様のイベントで別地区での開催があれば是非参加したい」など、バスツアーは好評でした。今後も、このような活動を通して「環境公共」の理念をPRしながら、青森県の農林水産業の魅力を発信していきたいと考えています。

■「環境公共」事例紹介

環境公共推進プロジェクト～山・川・海の恵みに感謝！水と大地の探検隊～

1 概要

令和5年10月5日（木）、中泊町の中里小学校5年生の児童25名を対象に、環境公共推進プロジェクト「山・川・海の恵みに感謝！水と大地の探検隊」を開催しました。

このイベントは、平成30年度から西北地域県民局と十三湖土地改良区が共同で実施しており、山・川・海に関する施設見学や体験学習を通じて、健全な水循環を守り、豊かな地域資源を将来に引き継ぐことの大切さへの理解を深めてもらうことを目的としています。

2 内容

最初の芦野頭首工では、左岸側の芦野頭首工と右岸側の芦野堰（ゴム堰）を見学し、その役割や改修工事について説明が行われました。児童から、「頭首工と堰をそれぞれ農林水産省と国土交通省が管理しているのはなぜか」という質問があり、「元々農林水産省が管理する頭首工のみであったが、国土交通省が川幅を広げたときに堰を設置したため、それぞれが連携して管理している」との説明を聞きました。

次の武田地区の水田では、本地区で導入している自動給水装置を見学し、水管理について学びました。児童たちは、田んぼに行かなくても適切な水管理が可能であることを知り、驚いていました。

最後の若宮機場では、水循環に関する紙芝居、森林の働きに関する実験、機場の説明が行われ、水を大切に使う必要があることを学びました。森林の働きに関する実験では、森林の保水力・ろ過実験を行い、濁った水が森林の土壌にゆっくり浸透することでろ過され、きれいな水になることを確認しました。その後、排水ポンプの能力や農業用水路の長さに関するクイズが行われ、楽しみながら学ぶことができました。



【武田地区 自動給水装置】



【森林の保水力・ろ過実験】



【ポンプの前で記念撮影】

3 イベントを終えて

後日、児童が今回の体験について作成した絵日記では、多くの児童が森林の保水力・ろ過実験について書いており、茶色に濁った水が透明に変わったことがとても印象に残ったようです。

頭首工などの農業水利施設の役割や水循環について学習し、一日では覚えきれなかったかもしれませんが、今回の体験で学んだことを思い出し、これからも豊かな地域資源を大切にしてくれることを願います。